

平成31年 1月 23日  
四国電力株式会社

## 伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について

今年度の訪問対話活動は、11月20日～12月10日の間、発電所から20km圏内のお客さまを対象に実施いたしました。

従来と同様、「広聴」に軸足を置き、地域の皆さまのご意見・ご要望を丁寧にお伺いするとともに、当社からは、「使用済燃料乾式貯蔵施設」、「1、2号機の廃止措置に関する計画」、「3号機の定期検査の概要」について、ご説明いたしました。

概要は以下のとおりです。

### 1. 実施状況

- ・ 期 間 平成30年11月20日（火）～12月10日（月）[21日間]
- ・ 訪問戸数 26,953戸（在宅率：約50%）

（内訳）

地 域		期 間	戸 数
伊方町	旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町	11/20～11/28	4,349戸
八幡浜市	旧保内町、旧八幡浜市	11/20～12/10	15,222戸
大洲市	旧大洲市（一部）、旧長浜町（一部）	11/29～12/10	2,740戸
西予市	旧宇和町（一部）、旧三瓶町、 旧明浜町（一部）	11/29～12/9	4,642戸
戸 数 の 合 計			26,953戸

当社からの訪問者数 620名（のべ1,360人・日、従業員が2人1組で訪問）

### 2. 実施結果

今回の訪問対話活動では、面談によるお客さまの印象として、全体として「一定の理解」をいただいている方が増加しています。（図1）

また、お客さまからの主なご意見のうち、「安全性・当社への理解」「乾式貯蔵に理解」の数字が大幅に増えています。これは、

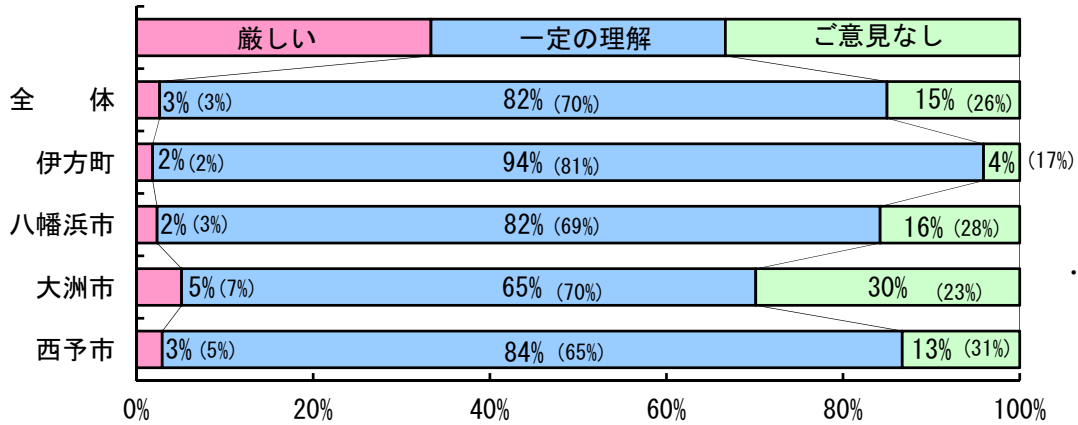
- ・ 運転再開に向けた各プロセスを計画通り着実に実施し、安全・安定運転を継続できているため、
- ・ 使用済燃料乾式貯蔵施設については、リーフレットを使用し、丁寧にご説明したことなどにより認知度も拡がり、一定のご理解をいただけたため、

と分析しています。（図2）

当社といたしましては、今回の対話活動で頂いたご意見やご質問の一つひとつを重く受けとめ、原子力発電・伊方発電所に関する一層のご理解をいただけるよう、引き続き、丁寧な理解活動、対話活動に全力を尽くしてまいります。

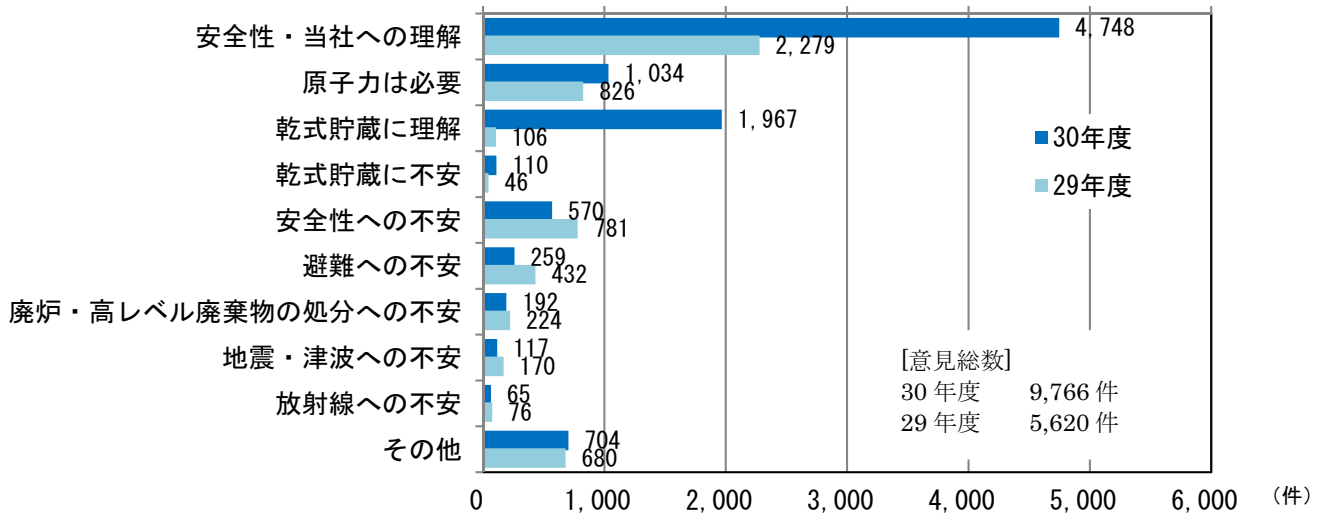
以上

[図1] 面談によるお客さまの印象



[注]  
・ ( ) 内は 29 年度の値  
四捨五入の関係で合計  
が 100 とならない場合  
がある

[図2] お客さまからの主なご意見



[注] お客さまからの主なご意見の分類を変更

[参考] お客さまからのご意見 (抜粋)

[厳しいご意見]

- ・ 震災以前も安全を重視していた中で、福島第一原子力発電所のような事故が起こったので不安。
- ・ 防災（避難）訓練に参加していない住民に対する丁寧な情報提供が必要。
- ・ 高レベル放射性廃棄物の最終処分地が決まっていななかで再稼働するべきではない。
- ・ 南海トラフの巨大地震が発生しても大丈夫か。100%の安全はなく、日本に原発は必要ない。
- ・ 使用済燃料の乾式貯蔵施設への保管が、半永久的に続くことになるのではないかなど

[一定の理解]

- ・ 安全性が向上したことは理解しているが、引き続き安全第一を徹底していただきたい。
- ・ 電気はなくてはならない。安定的に供給できる原子力発電は必要である。
- ・ 2号機の廃炉決定が残念。資源の少ない日本には原子力が必要だと思う。
- ・ 乾式貯蔵施設の計画について知ってはいたが、説明を聞いて安全性等がよくわかった。 など